

# 四種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ）

## 予防接種の説明書

### 四種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ）予防接種を受けましょう

一般にわたしたちの体は一度感染症にかかると、その後しばらくは同じ病原体を排除したり、その働きを止めたりします。こうして、感染症にかかりにくい状態になることを免疫と呼んでいます。この免疫をつけるために、弱い病原体や、弱い毒素を接種することを予防接種と呼びます。

子どもの発育と共に外出の機会が多くなります。保育園や幼稚園に入るまでには予防接種で免疫をつけ、感染症にかからないよう予防しましょう。

### ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオとはこんな病気です。

#### (1) ジフテリア

予防接種により、現在では患者発生数は年間10人未満です。症状は高熱、のどの痛み、犬の鳴声のようなセキ等で、窒息死することもある恐ろしい病気です。発病2～3週後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経マヒを起こすこともあるので注意が必要です。

#### (2) 百日せき

百日せきは普通のカゼのような症状ではじまります。続いてせきがひどくなり、連続的にせき込むようになります。せきのあと急に息を吸い込むので笛を吹くような音がでます。肺炎や脳症などの重い合併症をおこすこともあります。乳児では窒息死することもあります。

#### (3) 破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく土の中にひそんでいます。ヒトへの感染経路は傷口です。傷口から菌が入り体の中で増えると、菌の出す毒素によって口が開かなくなったり、けいれんをおこしたり、死亡することもあります。患者の半数は自分でも気づかない程度の軽い傷が原因です。

#### (4) ポリオ

ポリオは、ポリオウイルスが人の口の中に入って、腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。成人が感染することもあります。乳幼児がかかることが多い病気です。ポリオウイルスに感染しても、多くの場合、病気としての明らかな症状はあられずに、知らない間に免疫ができます。しかし、まれに腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。

(裏面につづく)

## 予防接種と副反応

現在日本で使用しているワクチンは、世界の中でも優秀なもので、副反応の頻度も少ないものです。しかし人間の体の性質は一人一人違いますから、副反応の出る人もできます。大切なことは診察される先生にお子さまの体調をよく診ていただいたうえで、接種をしていただくのがいちばんよいということです。お子さまのため、よく納得したうえで予防接種を受けましょう。

## 【四種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ）の副反応】

I期として3回、その後1年～1年半たって追加を1回行ないます。

またII期として小学校6年生時に二種混合（ジフテリア・破傷風）で免疫をつけます。

回数が多いので注意しましょう。やむをえず間隔が開いてしまっても、初めからやり直すことはせずに回数を守るようにしてください。

主な副反応として、接種部位の紅斑、硬結（しこり）、腫脹などの局所反応や、発熱などがみられます。まれに生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)や血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等）、脳炎及びけいれん等が報告されています。

診察を受ける医師に、お子さまの体調についてよくご相談のうえ、予防接種を受けてください。

東大阪市保健所